弘前運動公園防災拠点化改修基本構想

野球場改築基本構想

（概要版）

平成27年3月

弘前市

弘前運動公園　防災拠点化改修基本構想

《 弘前運動公園について 》

弘前運動公園は地域防災計画では広域避難地として位置づけられています。２８．２haと十分な広さを持ち、第１次緊急輸送道路に県指定されている国道７号線、県道１０９号線を接続道路とし、高速道路からのアクセスも良く、市役所等の施設からも近いことから、規模、立地の両面で防災公園として適した要件を備えております。これらのことから、防災拠点の機能を担う防災公園としての活用を目指して整備を行います。

《 整備の方針 》

防災公園は日常的な利用形態から発災後、時間と共に要求される役割が変化し、利用の方法も変わっていきますが、効率的な機能とするために、大きく北側と南側でゾーニングを設定しながら施設別機能の整理を行いました。

【 実働隊ゾーン 】

公園アプローチ道路と接続し、まとまった平地を確保できる南側の陸上競技場、球技場、野球場を実働隊ゾーンとします。

（陸上競技場）

グラウンド部分の整備、夜間照明対応を検討の上、ヘリポートとします。建物は医療班の活動場所や負傷者のトリアージ等、医療拠点となる救護所になります。また、青森空港が使用できない場合はヘリコプターの出動拠点となるヘリベースを兼ねます。

（球技場）

実働隊の車両待機場所とするほか、必要に応じて発災直後および初動段階に一時避難場所として使用します。

（野球場）

日常の公園管理機能と広い平地を併せ持つことから、消防・警察・自衛隊等の関係機関の現地指揮本部、活動拠点や宿営場所に使用します。また、照明塔を活かし陸上競技場が使用できない場合の臨時ヘリポートや、発災直後および初動段階の一時避難場所としても使用します。そのほか、備蓄倉庫を整備しますが、これらのための諸室が不足する場合はスタンドの拡充を検討します。

【 避難・救援・支援ゾーン】

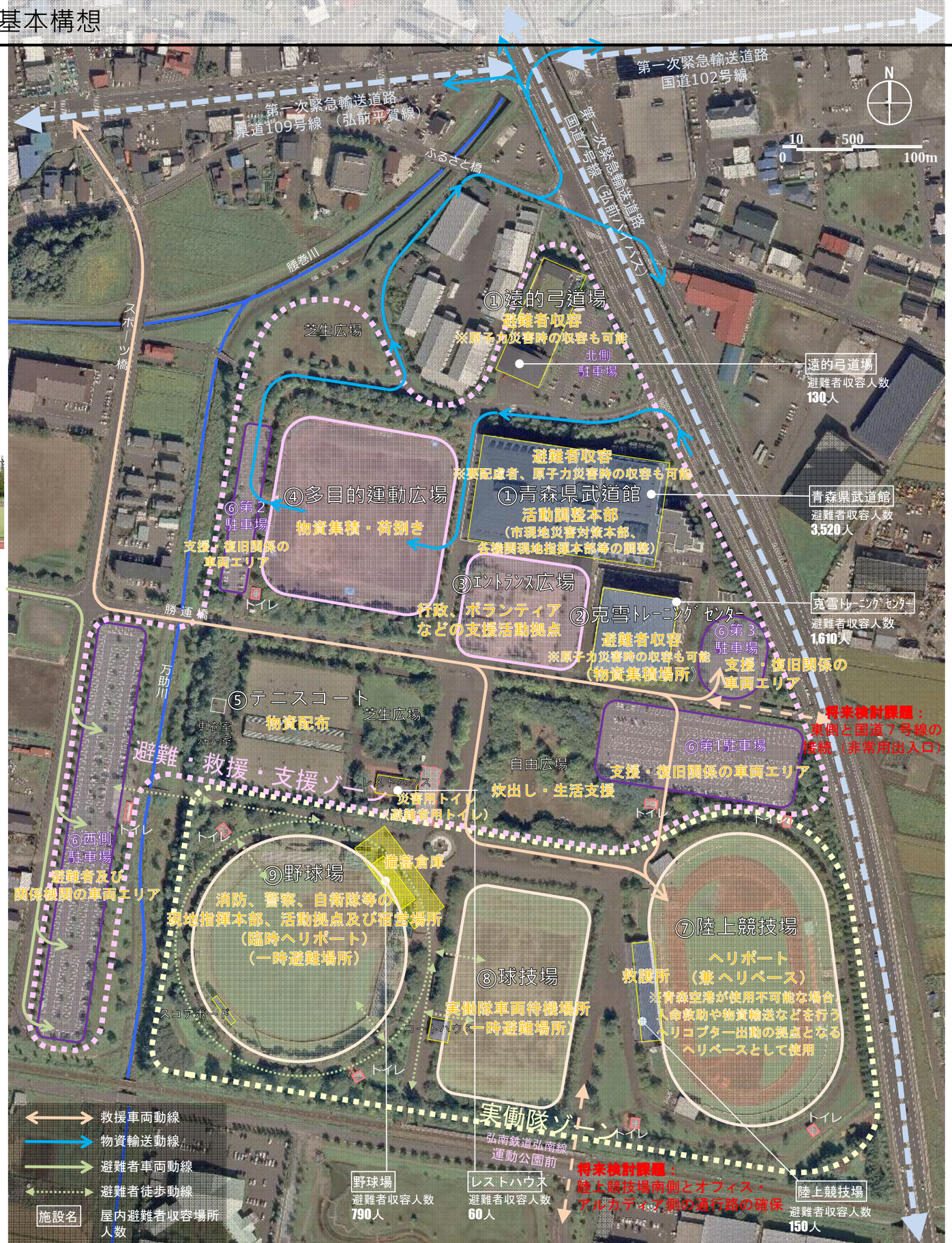
国道7号線からアクセスしやすく、大きな建物が集まる公園北側の多目的運動広場、駐車場、克雪トレーニングセンター、青森県武道館一帯を、避難・救援・支援ゾーンとします。

（青森県武道館･遠的弓道場、克雪ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ）

避難者収容施設とします。要配慮者は宿泊施設や座席を持つ青森県武道館への収容を原則とするほか、青森県武道館には市現地災害対策本部や各機関現地指揮本部等の調整を行う活動調整本部となります。克雪トレーニングセンターは、避難者受け入れをしない場合、風雨・雪を防げる物資集積場所に利用します。

（エントランス広場）

行政、ボランティアなどの支援活動拠点とし、被災地や被災者、物資に必要となる後方支援全般の窓口として機能します。



（多目的運動広場・テニスコート）

一次緊急輸送道路である国道７号線から直接アクセスできる多目的運動広場を物資集積場所、荷捌き場所とし、隣接するテニスコートを被災者や避難者への物資配布場所とします。

（駐車場）

西側駐車場は、避難者及び関係機関の車両エリア、第１～第３駐車場は、支援・復旧関係の車両エリアとします。

《整備が望まれる主要な機能》

出入口・園路

避難時の入口として、また救援や輸送に使われる各種の大型車両の通行を考慮し、必要な幅の確保を行います。

なお、公園東側と国道７号線の接続部に非常用出入口を設けると救援活動の大幅な向上が図れるほか、公園南側のオフィス・アルカディアとの通行路の確保も含め、将来検討課題とします。

非常用出入口イメージ

耐震性貯水槽

主に飲料水や衛生・医療用水の確保のため整備が必要です。水道管に直結するものや、建物に貯水槽を設けるものなど方式は様々です。

非常用井戸

主に生活用水確保に用いられます。トイレ洗浄のほか、親水用水レベルの水質であれば調理・洗面/手洗い・風呂/シャワー等に使えます。雨水貯留による代替・補完も考えられます。

非常用便所

災害直後から必要となる機能です。常設トイレの活用を図りながら、必要に応じて不足分を補う形で既存の屋外トイレの改築、マンホールトイレの整備を行います。

備蓄倉庫

備蓄倉庫イメージ

災害時に必要となる物品や資機材、あるいは地域で必要となる備蓄スペースを確保します。他の防災関連施設と分担しながら、必要最小限の備蓄内容とし、過大とならないものとします。

管理事務所・情報関連施設

災害時の現地対策本部として管理・運営を行う拠点、避難者支援や情報収集・伝達等の拠点となる場所です。避難や周辺住民に情報を提供するためと、地域全体の広域的なシステムの両面から整備が必要です。

平常時の機能の活用を図ると共に、公園管理と異なる機能・運用が必要な部分は関連部局と調整を行い、災害時の利用・運用方法の整合を図ります。

日常の管理機能と重複することから、青森県武道館の事務室が想定されるほか、公園の管理機能を持ち、スタンドから公園全体が見渡せて状況把握が容易な野球場において、貯水槽や備蓄倉庫等の機能向上を含めた一体的な整備が効果的です。

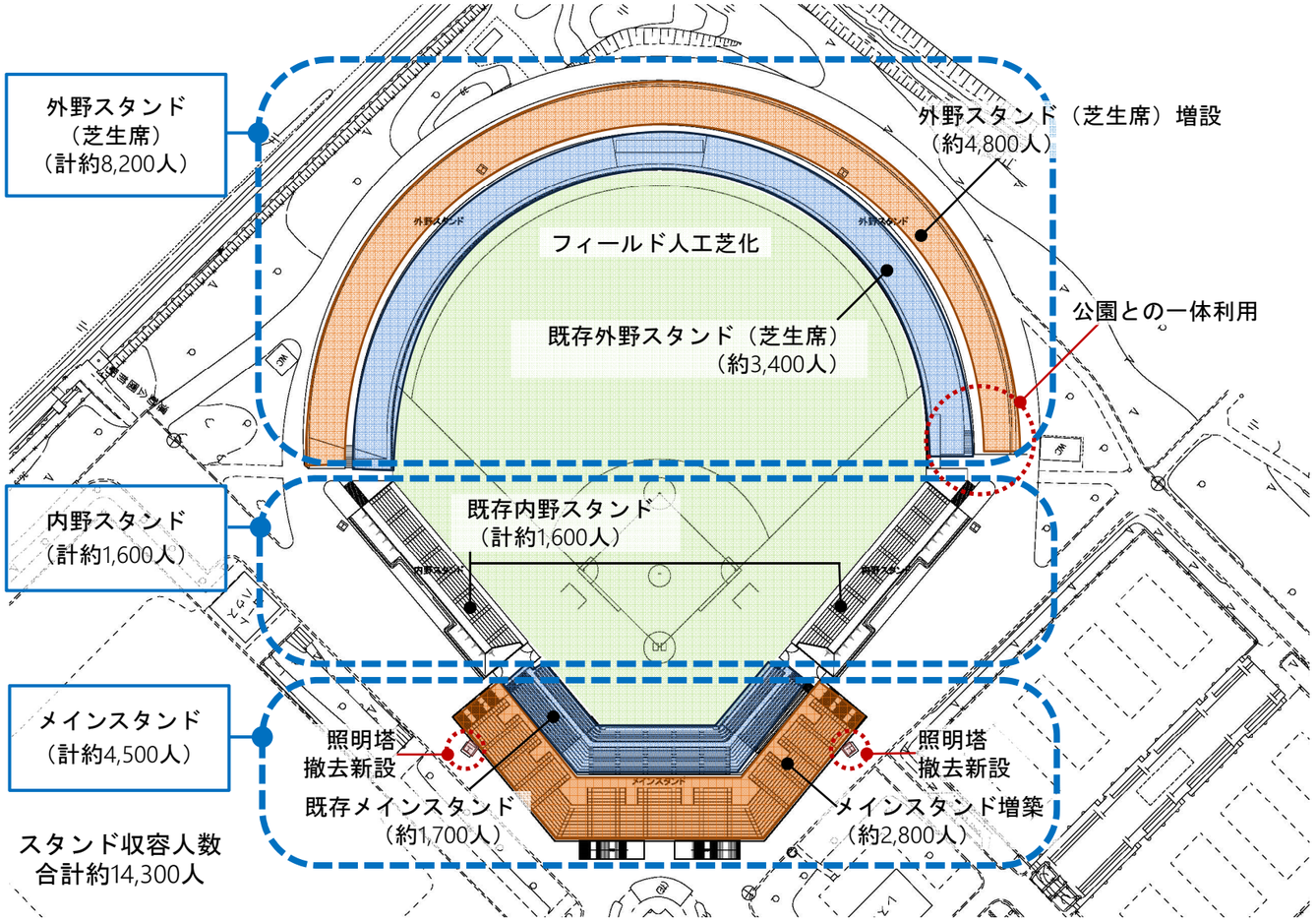
野球場改築基本構想

《野球場について》

野球場は完成以来37年が経過しており、平成26年度にはバックスクリーンの更新が行われたものの、メインスタンドの雨漏りが発生するなど建屋の老朽化が進行している状況にあります。
また、プロ野球１軍公式戦を誘致するにはさまざまな機能の整備、強化が必要になっています。

《野球場整備の方針》

・選手、観客の両面で、プロ野球１軍公式戦を開催できる施設を目標とします。
・防災公園として、野球場を災害時に避難所や物資備蓄・集積場所としても活用できるよう各種施設の増改築を行います。
・これらにより、市民ニーズへの対応を図りプロ野球１軍公式戦と安心・安全の提供を目指します。

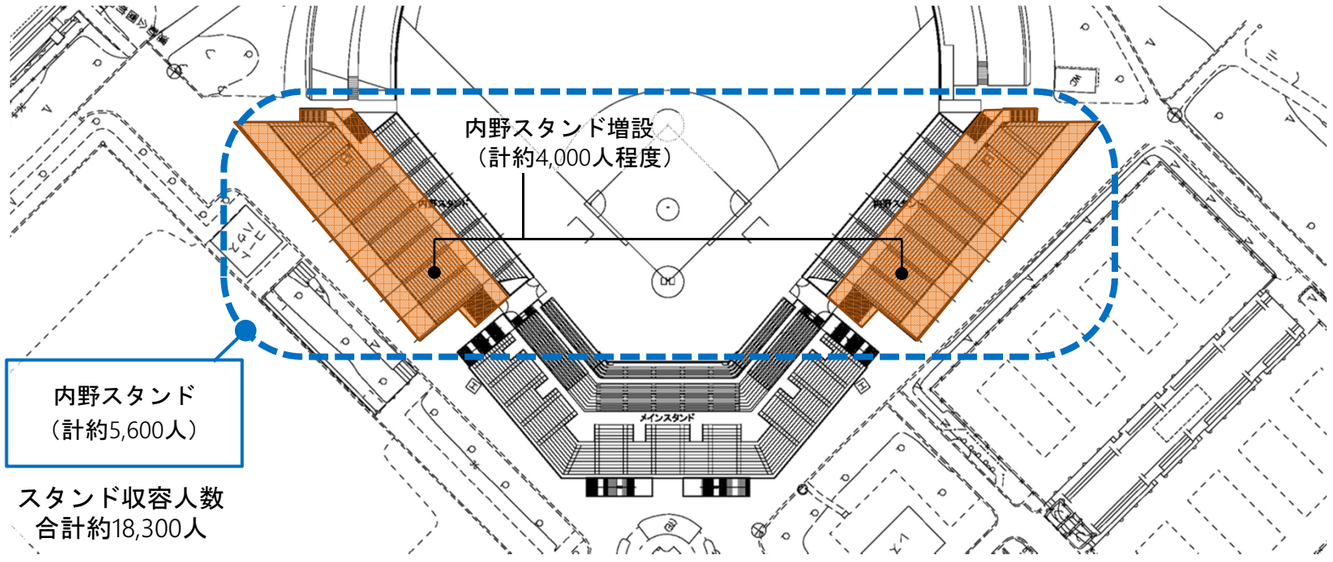


Ⅰ期完成配置イメージ
（平成29年度まで）

《基本方針とその機能》

配置計画

・既存メインスタンドを改修により引き続き利用することとし、スタンドや内外野席、フィールドの位置は現状のままとします。
・野球場の周囲には防災拠点として必要な通路を確保します。
・スタンド増築、観客席増設は、公園の他の施設配置への影響を極力及ぼさないよう計画します。



Ⅱ期完成配置イメージ

施設全体計画

・プロ野球１軍公式戦を開催するのに相応しい機能と規模を有した施設とし、段階的に整備を行いながら、観客収容席数は最終的に18,300人を目安に整備を行います。
・災害時の救援活動、復旧活動の拠点となりうる施設とします。
・ユニバーサルデザインに配慮した施設とし、障がい者や高齢者など、すべての人にやさしい仕様とします。
・公園施設として市民に開かれた親しみやすい施設とします。

内野・外野スタンド

・内野・外野スタンドの収容人数は、最終的に内野5,600人程度、外野8,200人程度とします。
・広く市民利用を図るため、外野スタンド部分は芝生席とし、通常時は公園利用者が公園の一部として利用できるようにします。

フィールド

・野球やソフトボールの試合、災害時の活動拠点、宿営、臨時ヘリポートなどの利用を考慮し、人工芝化します。

夜間照明

夜間照明の照度は旧ＪＩＳで内野・外野の規格が示され、バッテリー間の照度と共に以下が目安となっています。これに基づき必要な照度を確保します。

エリア	プロ野球基準	現状値
内野	2,000lx以上	800lx
外野	1,200lx以上	450lx
バッテリー間	2,500lx以上	1,100lx

野球場改築基本構想

メインスタンド

・ 観客収容人数は4,500人程度とします。

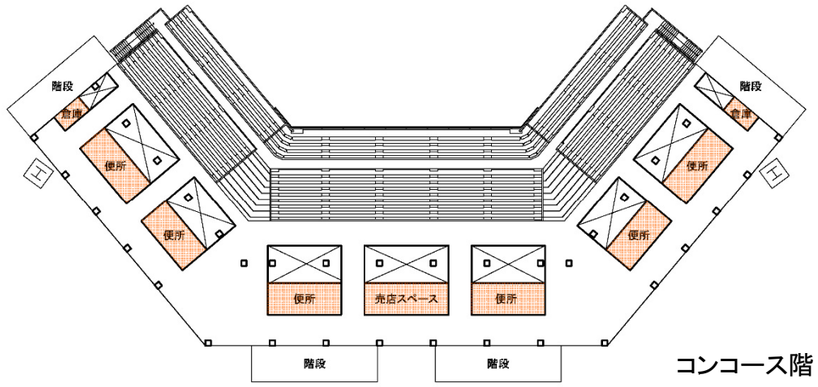
・野球場利用、試合開催に必要な諸室を整備します。

・ コンコースには、各種大会の開催に対応するため、売店スペースやトイレを設けます。

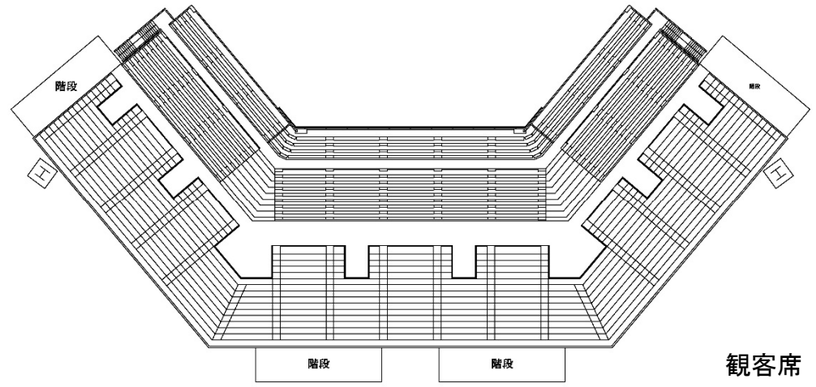
・ フィールド及び諸室は、緊急物資の一時保管場所や避難者の受け入れ、災害時の復旧活動等の活動拠点としての使用を想定します。

・ 災害時に備えて備蓄倉庫を設置します。

・ 誰もが利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。



コンコース階



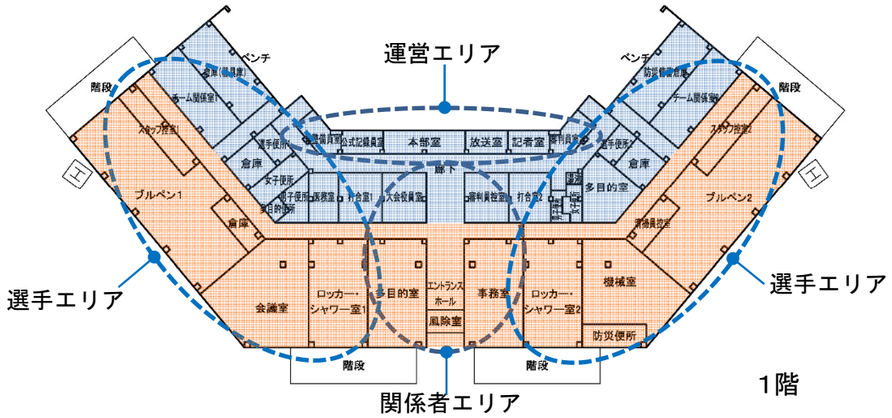
観客席

《事業スケジュール》

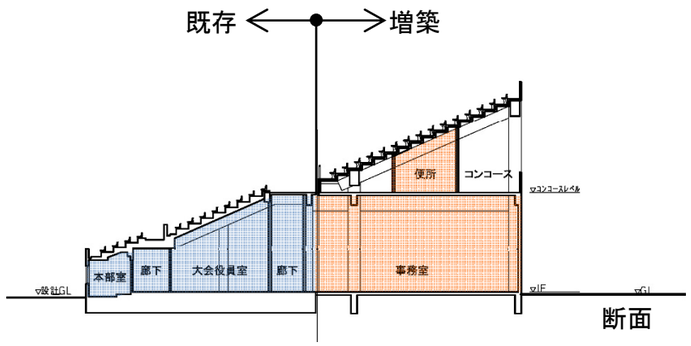
改築整備は２期に分けておこない、Ⅰ期工事として平成29年まで施設改修を進めます。

年度	事業内容
平成27年度	改修・改築設計、メインスタンド改修、既存諸室改修、外野スタンド整備、人工芝生化、照明塔器具交換・照明塔新設等
平成28年度	メインスタンド改修、人工芝生化等
平成29年度	メインスタンド改修、既存照明塔撤去・新設、人工芝生化等

今後、Ⅱ期工事は内野スタンド増設等を引き続き計画します。



1階



断面

《概算建設費》

Ⅰ期工事

項目	金額	主な内容
メインスタンド増築	14.6億円	観客席、諸室の増築等
メインスタンド改修	1.0億円	既存諸室の整備、改修等
外野スタンド増築	1.5億円	芝生席増設と周辺整備等
照明設備整備	4.6億円	照明塔器具交換、新設等
フィールド整備	3.6億円	人工芝化等
合計	25.3億円	

Ⅱ期工事

項目	金額	主な内容
内野スタンド増築	3.0億円	観客席増席等
合計	3.0億円	